

2024 年度全国通訳案内士試験
第2次口述試験対策＜2次セミナー＞（第3講）

【1】2023 年度第2次口述試験の概要

- 試験官：日本人（日本語母語話者）と外国人（受験外国語母語話者）の二名。
- 試験時間：受験者一人当たり約 10 分。
- 時間帯：受験者は、下記の六つの時間帯の中の指定された時間に受験した。
 - (1)【10:00:～11:00】
 - (2)【11:00:～12:00】
(昼休み)
 - (3)【13:00:～14:00】
 - (4)【14:00:～15:00】
(コーヒーブレイク)
 - (5)【15:30:～16:30】
 - (6)【16:30:～17:30】
- 上記の各時間帯別に、二つの異なる＜プレゼン＋外国語訳＞の組み合わせが用意され、合計 12 種類の＜プレゼン問題＋外国語訳問題＞が出題された。
- 試験の順番
 - (1)最初に日本人試験官から外国語で「名前、生年月日、今住んでいる所」を問われました。
 - (2)＜プレゼン＞
 - (3)＜プレゼン＞についての質疑応答
 - (4)＜外国語訳＞
 - (5)＜外国語訳＞についての質疑応答

試験の流れ

- 試験室入室から＜プレゼン＞開始までの流れ
(試験会場：東京、受験外国語：英語の場合)
 - (1)日本人試験官が、入り口のドアを開けて、「Please come in!」と言って入室を促す。
 - (2)日本人試験官から、英語で試験官に直面する三つの椅子の中央の椅子に座るように指示がある。試験官と受験者の間は、約 4m だった。他外国語の場合、椅子は二つの場合もあった。
(机の上には鉛筆とメモ用の A4 の用紙が数枚置かれてあった)
 - (3)日本人試験官から、英語で着席する椅子の左隣の椅子を示し「ここに荷物を置いてください」と指示がある。
 - (4)日本人試験官から日本語で「机の上の用紙にメモを取ってもいいが、持ち帰りはできません。自分の筆記具を使っても結構です」と指示がある。
 - (5)日本人試験官から日本語で「質問に対しては、通訳案内士として回答してください」と指示がある。
 - (6)日本人試験官から日本語で「名前、生年月日、今住んでいる所を言ってください」と指示がある。

●<プレゼン>の流れ

- (1) 外国人試験官から、<プレゼン>のテーマ(3題)が書かれた用紙を手渡される。
(A4の用紙の上の方に三つのテーマが印刷されていた)
- (2) 日本人試験官から「今から、3つのテーマを書いた紙をお渡ししますので、その中から一つを選んで約2分間でプレゼンをしてください。タイトルを決める時間、内容を考える時間を含めて30秒です。時間になったら、あなたの選んだタイトルを言ってからプレゼンを始めてください。メモを取っても結構です」と指示がある。
- (3) 「プレゼンのテーマが書かれた用紙は裏返しなさい」と指示がある。
- (4) 試験官が、30秒の計測を開始する。
- (5) 30秒経過したところで、「プレゼンを始めなさい」と指示がある。
- (6) 外国人試験官から、①プレゼンの内容についていくつかの質問がある。②質問が一つのみの場合もある。③全く質問されない場合もある。沈黙したら、即、不合格となるので、とにかく、笑顔で話続けることが肝要である。

●<外国語訳問題>

- (1) 日本人試験官から、「これから読み上げる日本語の内容について、1分から1分30秒以内で(※)通訳してください。読み終わったら直ぐに始めてください。制限時間1分30秒で打ち切りとなります(※)」と指示がある。
(※)上記、「1分から」を言われなくてもある。
(※)上記、「1分から1分30秒以内で」を言われなくてもある。
(※)上記、「制限時間1分30秒で打ち切りとなります」を言われなくてもある。
- (2) 受験者が、読み上げられた日本語を受験外国語に訳す。
- (3) 留意点
 - ①日本語は、1回しか読み上げられないので、内容をイメージしながらよく聞くこと。
 - ②メモは、数字、固有名詞など、最小限に限り簡潔に書くこと。

●<困った状況>についての質疑応答

- (1) 「上記の日本語の内容に関連して、日本語で通訳案内の現場で想定される状況に全国通訳案内士としてどのように対応するかを問います」と指示がある。
 - ①「全国通訳案内士として」というところがキモである、
 - ②受験者は、「ガイドマニュアル」を読んで、通訳案内士の立場、視点を身に付けることが大切である。
- (2) 外国人試験官から、<シチュエーション>が書かれた用紙を手渡される。
- (3) 日本人試験官から「今から、困った状況を書いた紙を30秒で読んでもらいます。そのあと、外国人試験官を外国人観光客とみなして、通訳案内士として回答してください。30秒の中で、メモを取っても結構です」と指示がある。
- (4) 受験者が回答する。
- (5) 受験者の回答について、外国人試験官が①いくつかの異なる質問をする。②一つの質問について質疑応答を繰り返す場合もある。

【3】<プレゼン><外国語訳>の留意点

【1】注意すべき点

- ・試験の順番ですが、<プレゼン>(2分程度)が最初であり、次に、<外国語訳>の順番である。
- ・<プレゼン>の内容について、受験外国語で質疑応答がある。
- ・<外国語訳>(1分程度)についての質問は、日本語で問われるが、回答は受験外国語。
- ・<外国語訳>については、メモを取ってもよい。
- ・<プレゼン><外国語訳>のいずれにおいても、「日本の地理、歴史並びに産業、経済、政治および文化についての主要な事柄のうち、外国人観光客の関心の強いものを題材とします」

【2】「プレゼン+質疑応答」の質疑応答は「行き当たりばったり」

試験実施サイドとしては、「プレゼン+質疑応答」に関しては、一人の受験者に対して、三つのテーマを準備するだけです。

受験者の<プレゼン>の内容は事前には分かりませんので、<プレゼン>に関する試験官からの質問も事前には用意できません。

つまり、「プレゼン+質疑応答」における試験官と受験者の間の質疑応答は、「行き当たりばったり」となります。ここで重要なことは、内容が薄くても、最後まで笑顔で話し続けることです。ガイドラインの「臨機応変な対応力、会話継続への意欲」をお忘れなく。

【3】「外国語訳+質疑」の準備は万全。「質疑」ではなく「尋問」である。

一方、「外国語訳+質疑」では、試験実施サイドは、事前に、外国語訳すべき日本文とその日本文に関する質問を**入念に準備万端整えている**はずであり、試験官は、用意された質問を矢継ぎ早に受験者に問い、「全国通訳案内士として求められる対応」を五つの評価項目で評価することになります。

ここでいう「質疑」は、「尋問」に近いもので、試験官は、「プレゼン+質疑応答」で必要とされるストレスもなく、「尋問」しながら、スイスイ評価できるので、いきおい、「外国語訳+質疑」が**試験の中心(ヤマ)**になることは、**容易に想像できます**。

試験官としては、<外国語訳>でおおよその**①受験者の語学力**が分かり、「質疑」で**②受験者の知識と対応力**が分かるので、この時点で、合否が決まってしまうと思われます。

つまり、「外国語訳+質疑」で失敗は許されません。

【4】<プレゼン対策>

【1】プレゼンテーションなのか、スピーチなのか？

(1)プレゼンテーションとスピーチの違い

プレゼンテーションと似た言葉にスピーチがありますが、日本では、一般的に、プレゼンテーションとスピーチは、次のように理解されています。

プレゼンテーションもスピーチも、「相手に自分の思っていることを伝える行為」という意味ではどちらも同じですが、この2つには決定的な違いがあります。

それは、スピーチは、「自分の思っていることを、相手にわかりやすく伝えて理解してもらうことが目的」であるのに対し、プレゼンテーションは、自分の思っていることを相手にわかりやすく伝えて理解してもらったうえで、「それに応える相手の行動を引き出すことが目的」だという点です。

伝説的なスピーチとして知られているスティーブ・ジョブズのスタンフォード大学の卒業式でのスピーチですが、これは、スピーチなのでしょう？

死に直面した実体験などを元にした三つのストーリーをベースにして、卒業生に対して、“Stay hungry, stay foolish.” の言葉で締めくくられたこのスピーチは、多くの聴衆に対して、「あなたの人生はそれでいいの？」と強烈な問を与え、人生に対して真摯に向き合う提言をしました。

実際、スタンフォード大学の卒業生だけではなく、YouTube などでのスピーチを繰り返し聞いた多くの人々は、人生の岐路に立ったときに、今でも大いに参考にしているとのこと。

彼のスピーチは、「聴衆の行動を引き出す」という意味で、スピーチではなく、優れて、プレゼンテーションであった、とすることができます。

まだ、聞いたことのない人は、是非、一度、お聞きください。

<https://www.youtube.com/watch?v=UF8uR6Z6KLc&t=108s>

・hungry, foolish の意味:

・hungry: 渴望せよ

・「現状に満足して歩みを止めるな。より先の未来を渴望し、追い求めよ！」

foolish: 常識に牙を抜かれるな「インテリどもの言う常識に踊らされるな。それはあなたの牙を抜くための罠だ！」

(2)「プレゼンテーションのテーマ」ではなく、「スピーチのトピック(話題)」が適切である。

2023年度の10:00からのプレゼンテーションのテーマとして、下記の三題が出題されました。

①人形浄瑠璃

②兼六園

③合気道

受験者は「人形浄瑠璃について」自分の思っていることを試験官に話すわけですが、別に、試験官に何か行動を引き出すことを目的に話すのではありません。「兼六園について」もしかり。「合気道について」もしかりです。

それでは、受験者が「人形浄瑠璃、兼六園、合気道」について話す目的は何でしょうか？

(3)「外国人観光客の訪日旅行」がテーマです！

受験者は、通訳案内士(通訳ガイド)の立場(視点)から、外国人観光客の訪日旅行をテーマとして、「人形浄瑠璃、兼六園、合気道」について話すことが目的であって、試験官の行動を引き出すことではありません。

その意味で、本当は、「プレゼンテーションのテーマ」ではなく、「スピーチのトピック(話題)」が適切な表現だと思います。

つまり、受験者は、

- ①通訳案内士(通訳ガイド)の立場(視点)から
- ②外国人観光客の訪日旅行をテーマとして
- ③与えられた「スピーチのトピック(話題)」について話すことが求められているのです。

視点とテーマ(外国人観光客の訪日旅行)が定めれば、どのような問題テーマ(トピック)が与えられても、自ら、「望ましいスピーチ」を想定することができます。

【2】スピーチの構成

(1)一般的な三段構成

日本では、「起承転結」などと言われますが、英語のスピーチの一般的な構成は、次の三段構成です。

- ①Introduction (導入)
- ②Main Contents (内容) (Main Contents = Sub Content + Sub Content + Sub Content)
- ③Conclusion (まとめ)

しかし、通訳案内士試験におけるスピーチの構成はこれでいいのでしょうか？

(2)私は、次の二つの構成をお勧めします。

最初から、問題テーマ(トピック)が与えられているので、Introduction (導入)の部分は不要となります。余計なことに頭を使わずに、Introduction (導入)は、バツサリと割愛します。

<その1>一段構成

Facts(事実) (Facts = Fact + Fact + Fact)のみ

Facts(事実)のみを、通訳案内士の立場(視点)から、外国人観光客の訪日旅行をテーマとして2分間話すことができれば、それはそれで結構だと思います。これが、一番シンプルな構成です。

<その2>二段構成

Facts(事実)のみで、2分間話せない時に、Conclusion (まとめ)を付け加えます。

- ①Facts(事実) (Facts = Fact + Fact + Fact)
- ②Conclusion (まとめ)

【3】Conclusion（まとめ）作成のポイント

(1) 前提事項

受験者が求められていること:

- ・通訳案内士(通訳ガイド)の立場(視点)から
- ・外国人観光客の訪日旅行をテーマとして
- ・与えられた「スピーチのトピック(話題)」について話すこと

(2) 想定される Conclusion（まとめ）

① 個人的な観点からの Conclusion（まとめ）

- ・私は、自分の外国語力(専門知識)を活用して、外国人観光客のためにお役に立ちたいと思います。
- ・私は、自分の茶道(華道、柔道、相撲、伝統芸能)の知識を活用して、外国人観光客のためにお役に立ちたいと思います。
- ・私は、海外で現地の方から親切にしてもらったので、今度は、私が外国人観光客を親切におもてなししたいと思います。

② 通訳案内士の観点からの Conclusion（まとめ）

- ・外国人観光客が、日本旅行を心ゆくまで楽しんでもらえるように努めたいと思います。
- ・より良いガイドングができるように、通訳案内士同士で勉強会などしたいと思います。

③ 旅行業界の観点からの Conclusion（まとめ）

- ・「佐渡の金山」が、世界遺産に決まったこともあり、もっと、多くの外国人観光客が日本に来るといいと思います。
- ・もっと、外国人観光客が分かりやすい案内標識、地図、メニューがあればいいと思います。
- ・JNTO が運営する有楽町の ”Tourist Information Center” が、銀座の反対側の外国人観光客がほとんど訪れないオフィスビル街にあることはおかしいと思います。(←本番では言わないこと)

④ 日本経済の観点からの Conclusion（まとめ）

- ・少子高齢化する日本にあって、縮小する国内経済の活路の一つを「観光立国」に求めることは正しいと思います。外国人観光客を誘致するために、もっと海外に向けて日本を宣伝する必要があります。

【4】滝川クリステルさんのスピーチから学ぼう

2020年の東京オリンピック・パラリンピックが決定したIOC総会、その最終投票直前に行われた東京のプレゼンテーションで、スピーチをした、滝川クリステルさん。滝クリの笑顔、流暢なフランス語、全てがパーフェクトなスピーチだったと専門家が評価する世界最高レベルのプレゼンテーションから学びましょう。



(1)スピーチの動画(フランス語+日本語)(スピーチ自体の時間は、2分20秒です)

<https://www.youtube.com/watch?v=6hggYGKWwhg>

(2)滝川クリステルさんのスピーチの日本語訳

(起) <イントロダクション 1>

東京は皆様をユニークにお迎えします。日本語ではそれを「お・も・て・な・し」という一語で表現できます。

(承) <イントロダクション 2>

それは見返りを求めないホスピタリティーの精神、それは先祖代々受け継がれながら、日本の超現代的な文化にも深く根付いています。「おもてなし」という言葉は、なぜ日本人が互いに助け合い、お迎えするお客さまのことを大切にすることを示しています。

(転 1) <おもてなしの具体例>

ひとつ簡単な例をご紹介します。もし皆様が東京で何かをなくしたならば、ほぼ確実にそれは戻ってきます。例え現金でも。実際に昨年、現金 3000 万ドル以上が、落し物として、東京の警察署に届けられました。世界を旅する 7 万 5000 人の旅行者を対象としておこなった最近の調査によると、東京は世界で最も安全な都市です。

(転 2) <東京の他の特徴>

この調査ではまた、東京は次の項目においても第 1 位の評価を受けました。公共交通機関。街中の清潔さ。そして、タクシーの運転手の親切さにおいてもです。あらゆる界限(かいわい)で、これらの資産を目にするでしょう。東洋の伝統的な文化。そして最高級の西洋的なショッピングやレストランが、世界で最もミシュランの星が多い街にあり、全てが、未来的な都市の景観に組み込まれています。

(転 3) <競技会場の中心地のひとつとなるお台場の説明>

私が働いているお台場は、史上初の“ダウンタウン”ゲームズを目指すわれわれのビジョンの中心地でもあります。それは都心に完全に融合し、文化、生活、スポーツがユニークに一体化します。ファントレイル、ライブサイト、チケットを必要としないイベントが、共有スペースにおいて多くの競技会場を結び、素晴らしい雰囲気を作り出します。

<結>

来訪者全てに生涯忘れ得ぬ思い出をお約束します。

以上